

第3学年 単元の目標と評価の具体例

3 年上巻

◎ 算数のとびら (算数の学習の進め方)					
目 標					指導時数・時期
○ 100 を単位とする数の加法・減法について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して相対的な見方にもとづく加法・減法についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。					1 時間 2 学期制：4 月上旬 3 学期制：4 月上旬
評 価					
(知) ・算数の学習を進める手順を知り、図、式、ことばなどを用いて考えたり、説明したり、話しあったりすることのよさを理解している。					
(思) ・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりしている。					
(態) ・自らが主体となる学習の進め方に関心をもち、話しあい活動や発表に進んで取り組んでいる。 ・学習を進める手順や話しあいの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	4～9	○100 を単位にした(何百)+(何百)や(千何百)-(何百)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話しあいのやり方など算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話しあう算数学習の進め方のよさに気づく。	・学習の進め方 ・100 を単位にした何百のたし算・ひき算 ・ノートのかき方 ・数学的な見方・考え方	(思判表) (何百)+(何百)の計算の仕方を考えたり、ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》 (知技) 100 を単位にした加減計算ができる。《観察・ノート》 (態度)学習を進める手順や話しあいの仕方などをふり返り、これからの学習にいかそうとしている。《観察・ノート》

1 九九の表とかけ算					
目 標					指導時数・時期
○ 10 や 0 のかけ算について、その意味や計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、かけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5 時間 2 学期制：4 月上旬～4 月中旬 3 学期制：4 月上旬～4 月中旬
評 価					
(知) ・10 のかけ算、0 のかけ算の意味を理解し、その計算ができる。					
(思) ・かけ算のきまりを用いて、かけ算の仕組みや 10 や 0 のかけ算の仕方を考えている。					
(態) ・かけ算のきまりを見つけたり計算にいかしたりすることに進んで関わり、ふり返りを通してかけ算のきまりのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	130	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「かけ算の きまり」	
(課題設定)	1	10 11	○九九の表を使った数あてゲームを通して、単元の課題をつかむ。 ○かくれた数のみつけ方を説明する活動を通して、かけ算のきまりを見いだしまとめる。	・九九の表の性質と動機づけ ・乗数が 1 増える (減る) ときの積の変化 《かけ算のきまり》	(態度)かくれた数のみつけ方を考えようとしている。《観察・発言》 (思判表)九九の表のきまりに着目して、かくれた数のみつけ方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	2	12～13	○かけ算の意味やきまりに着目して、(1 位数)×10 や 10×(1 位数)の答えを求めることができる。	・(1 位数)×10、10×(1 位数)、10×10 のかけ算 《ことばの式》	(思判表)3×10 や 10×3 の答えの求め方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)10 のかけ算の答えを求めることができる。《ノート》
	3	14	○かけ算の意味やきまりに着目して、(1 位数)×0 や 0×(1 位数)の答えを求めることができる。	・a×0、0×a、0×0	(思判表)5×0 や 0×2 の答えの求め方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)0 のかけ算の答えを求めることができる。《ノート》
	4	15	○かけ算のきまりを使って、□を使って表された、かける数やかけられる数を求めることができる。	・a×□=b、□×a=b の□にあてはまる数のみつけ方	(態度)かけ算のきまりのよさをいかして、6×□=24 や□×7=21 の□にあてはまる数を見つけようとしている。《観察》 (知技)a×□=b や□×a=b の□にあてはまる数を見つけることができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	5	16～17	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

2 わり算					
目 標					指導時数・時期
○ わり算について、その計算の意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の意味やよさを理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10 時間 2 学期制：4 月中旬～5 月上旬

評 価					3 学期制：4 月中旬～5 月上旬
(知) ・等分除や包含除の意味を理解し、除法の適用場面を式に表して、九九を用いて答えを求めることができる。 ・答えが九九にないわり算の答えを求めることができる。 (思) ・わり算の場面を既習のかけ算と関連づけて、わり算の計算の仕方を考えたり、説明したりしている。 (態) ・わり算に進んで関わり、ふり返りを通してわり算の式にかくことやその計算の仕方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	130	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「九九の表とかけ算」	
(課題設定)	1	18	○同じ数ずつ分ける計算について調べていくという、単元の課題をつかむ。	・同数に分けることの動機づけ	(態度)等しく分ける分け方に関心をもち、同じ数ずつに分けようとしている。《発言・観察》
① 1 人分の数をもとめる計算		19～20	○数図ブロックを 3 等分する操作を通して、等分除の意味を理解し、除法の式に表すことができる。	・等分除の式と求答 (12÷3、操作から) 《わり算、÷》	(知技)等分除の意味や式について理解し、等分したときの 1 人分の数を式に表すことができる。《観察・ノート》
	2	21	○わり算がかけ算の逆演算であることをもとに、等分除の答えをかけ算九九を使って求めることができる。	・等分除の求答 (九九から)	(思判表)等分除の答えの求め方を、かけ算九九を使って考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)等分除の問題をわり算の式に表して答えを求めることができる。《ノート》
② 分けられる人数をもとめる計算	3	22～23	○数図ブロックを 3 こずつに分ける操作を通して、包含除の意味を理解し、包含除の場合も除法の式に表して答えを求めることができる。	・包含除の式と求答 (12÷3、操作から) ・包含除の求答 (九九から)	(知技)包含除の意味について理解し、わり算の式に表して答えを求めることができる。《観察・ノート》
③ 2 つの分け方	4	24	○等分除と包含除を統合的にとらえ、どちらもわり算の式に表して九九を使って答えを求めればよいことを理解できる。	・等分除と包含除を統合したわり算の意味(□×3=6、3×□=6) 《わられる数、わる数》	(思判表)等分除と包含除をわり算として統合的にとらえている。《発言・観察》
	5	25	○問題づくりを通して、わり算の理解を深める。	・15÷3、□×3=15、3×□=15	(態度)身のまわりからわり算になる場面や問題を進んで見つけ、わり算を生活や学習にいかそうとしている。《観察・ノート》
●練習	6	26	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
④ わり算を使った問題	7	27	○問題の中のわり算の意味に着目し、わり算を含む 3 要素 2 段階の問題を解く。	・除法と加法 (減法) を組み合わせた問題	(思判表)順序よく考えて、除法と加法や減法を組み合わせて問題を解決している。《発言・ノート》
⑤ 答えが九九にないわり算	8	28	○何十や 0 をわる、答えが九九にないわり算の計算の仕方を、わり算がかけ算の逆演算であることをもとに考え説明することができる。	・(何十)÷(1 位数)や 0÷(1 位数)の答えが九九にないわり算	(思判表)被除数が何十や 0 で答えが九九にないわり算の答えの求め方を考えたり、説明したりしている。《観察・発言》 (知技)答えが 10 や 0 のわり算ができる。《ノート》
	9	29	○(2 位数)÷(1 位数)=(何十)の計算の仕方を、数の相対的な見方を活用して考え説明することができる。	・(何十)÷(1 位数)=(何十)のわり算や(何十何)÷(1 位数)で答えが 10 をこえるわり算	(思判表)数の相対的な見方や構成的な見方を働かせて、答えが九九にないわり算の答えの求め方を考えたり、説明したりしている。《観察・発言》 (知技)答えが 2 位数になるわり算ができる。《ノート》
学びのまとめ	10	30～31	○学習内容の自己評価	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

思 見方・考え方を深めよう「あれ？ たくさんいたのに……」

目 標					指導時数・時期
○ 3 要素 2 段階の文章題の解決を通して、数量の関係を線分図に表して未知数の求め方を考えることができるようにし、また、加法や減法の場面や計算の関係についての理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2 時間 2 学期制：5 月中旬 3 学期制：5 月中旬
評 価					
(知) ・3 要素 2 段階の文章題をよみ、数量の関係を線分図に表すことができる。 (思) ・数量の関係を線分図に表し、未知数の求め方を考えたり説明したりしている。 (態) ・3 要素 2 段階の文章題に進んで関わり、ふり返りを通して図にかいて考えることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	32～33	○数量の関係を図に表して、減減の場面のはじめの数を求めることができる。	・加法の順思考と減法の逆思考を組み合わせた問題 (□-(a+b)=c)	(知技)数量の関係を線分図に表すことができる。《観察・ノート》 (思判表)線分図をもとに、減減の場面のはじめの数の求め方を考えている。《発言・観察》

	2	34~35	○数量の関係を図に表して、増増の場面のはじめの数を求めることができる。	・加法の順思考と加法の逆思考を組み合わせた問題 $((a+b)+□=c)$	(態度)数量の関係を線分図に表して考えることよき気づき、図を使って考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)線分図をもとに、増増の場面のはじめの数の求め方を考えている。《発言・観察》
--	---	-------	-------------------------------------	---------------------------------------	---

3 たし算とひき算の筆算

目 標			指導時数・時期		
○ (3位数)±(3位数)、簡単な(4位数)±(4位数)の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			10時間 2学期制：5月中旬～5月下旬 3学期制：5月中旬～5月下旬		
評 価					
(知)・繰り上がりや繰り下がり処理を通して、十進位取り記数法の理解を深め、(3位数)±(3位数)や簡単な(4位数)±(4位数)の筆算を、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算することができる。					
(思)・既習の2位数の計算の仕方をもとに、(3、4位数)±(3、4位数)の筆算の仕方を考えている。					
(態)・(3、4位数)±(3、4位数)の筆算に進んで関わり、ふり返りを通して筆算の仕方のよさ、答えの見当づけや確かめの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんぴ	—	130	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「たし算とひき算のひっ算」	
(課題設定)	1	36	○既習の2位数の筆算の仕方をもとに、3位数の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	・3桁のたし算・ひき算の動機づけ	(態度)既習の筆算の仕方をもとに、3
① たし算の筆算		37	○(3位数)+(3位数)で繰り上がりが1回の筆算ができる。	・(3位数)+(3位数)で、一の位が繰り上がる筆算	位数のたし算の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(3位数)+(3位数)で一の位が繰り上がる筆算ができる。《ノート》
	2	38	○(3位数)+(3位数)で繰り上がりが2回の筆算ができる。	・(3位数)+(3位数)で、一の位と十の位が繰り上がる筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに、2回繰り上がる筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3位数)+(3位数)で2回繰り上がる筆算ができる。《ノート》
	3	39	○(3位数)+(3位数)で和が4桁になる筆算ができる。	・(3位数)+(3位数)で、百の位が繰り上がる筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに、(3位数)+(3位数)で和が4桁になる筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3位数)+(3位数)で和が4桁になる筆算ができる。《ノート》
② ひき算の筆算	4	40~41	○(3位数)-(3位数)で繰り下がりが1回の筆算ができる。	・(3位数)-(3位数)で、十の位または百の位から繰り下げる筆算	(態度)既習の筆算の仕方をもとに、3
	5	42	○(3位数)-(3位数)で繰り下がりが2回の筆算ができる。	・(3位数)-(3位数)で、十の位と百の位から繰り下げる筆算	位数のひき算の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(3位数)-(3位数)で、百の位から繰り下げる筆算ができる。《ノート》
	6	43	○(3位数)-(3位数)で、繰り下がりが上位2桁に及ぶ筆算ができる。	・(3位数)-(3位数)で、繰り下がりが2桁に及ぶ筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに、2回繰り下がる筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3位数)-(3位数)で2回繰り下がる筆算ができる。《ノート》
●練習	7	44	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③ 4けたの数の筆算	8	45	○3位数の筆算の仕方をもとにして、(4位数)±(4位数)の筆算の仕方を考えることができる。	・簡単な(4位数)+(4位数)や(4位数)-(4位数)の筆算	(態度)既習の筆算の仕方をもとにすれば4位数の筆算もできることに気づき、進んで取り組んでいる。《発言・観察》
④ 計算のくふう	9	46	○3口の加法を工夫して計算することができる。	・3位数を含む3つの数のたし算の工夫	(思判表)3口の加法の計算を簡単に処理する仕方を考え、工夫したことを図、式、ことばを関連づけて説明している。《発言・観察》
学びのまとめ	10	47~48	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	49	○既習事項の確認と持続	・復習	

4 時こくと時間

目 標				指導時数・時期	
○ 時刻と時間について、秒の意味を理解し、いろいろな時間や時刻の求め方を考えたり説明したりすることを通して、時刻と時間についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4 時間 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬	
評 価					
(知) ・時刻や時間の求め方や秒について理解し、必要な時刻や時間を計算によって求めたり、秒の単位を用いて測定したりすることができる。 (思) ・ちょうど何時かの時刻の区切りに着目し、時刻や時間の求め方を考えている。 (態) ・身のまわりの時刻や時間に進んで関わり、ふり返りを通して時刻や時間の求め方のよさや秒という単位の必要性に気づき、生活や学習にかかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	130	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「時こくと 時間」	
(課題設定)	1	50	○町探検の計画を立てる話し合いを通して、単元の課題をつかむ。	・時刻と時間の動機づけ ・一定時間後の時刻の求め方 ・時刻と時刻の間の時間の求め方	(態度)時計の模型を操作して、進んで時刻や時間の求め方を考えようとしている。《観察》 (思判表)ちょうどどの時刻をまたぐ何分か後の時刻や、時刻と時刻の間の時間の求め方を考えたり、説明したりしている。《観察・発言》
		51	○ちょうどどの時刻や正午の区切りに着目し、何分か後の時刻や、時刻と時刻の間の時間を求めることができる。		
	2	52	○ちょうどどの時刻の区切りに着目し、何分か前の時刻を求めることができる。 ○1時間=60分を用いて、時間と分を言い換えることができる。	・一定時間前の時刻の求め方 ・「時間」と「分」の関係 (1時間=60分)	(思判表)ちょうどどの時刻をまたぐ何分か前の時刻の求め方を考えたり、説明したりしている。《観察・発言》 (知技)1時間=60分を使って、何時間何分を何分になおすことができる。《発言・ノート》
	3	53	○1分よりも短い時間の単位「秒」について理解し、秒で表される時間について調べる。	・秒の定義、「分」と「秒」の関係 (1分=60秒) 《秒》	(態度)短い時間をはかったり体感したりする活動に進んで取り組み、1分より短い時間の単位の必要性に気づいている。《観察》 (知技)1分は60秒であることを理解し、分と秒の言い換えができる。《発言・ノート》
学びのまとめ	4	54～55	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

5 一万をこえる数

目 標				指導時数・時期	
○ 一万をこえる数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：6 月上旬～6 月下旬 3 学期制：6 月上旬～6 月下旬	
評 価					
(知) ・一億までの数の表し方や仕組みを理解し、一億までの数を表したりよんだりすることができる。 位の仕組みや数の相対的な大きさに着目し、加減計算の仕方や10倍、100倍、1000倍した数や10でわ (思) ・った数の求め方を考えている。 一億までの数とその仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法や数の相対的な見方のよ (態) ・さに気づき、生活や学習にかかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	130	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「1000を こえる 数」	
(課題設定)	1	56	○生活場面(マラソン大会)から、一万をこえる大きな数について調べていくという単元の課題をつかむ。	・生活場面による大きな数の動機づけ ・一万の位までの数のよみ方、かき方、数構成	(態度)既習の一萬までの数の表し方をもとに、一万をこえる数の表し方について考えようとしている。《観察・発言》 (知技)一万の位までの数のよみ方やかき方を理解している。《観察・ノート》
①万の位		57～58	○一万をこえる大きな数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。		
	2	59～60	○千万の位までの数のよみ方、かき方について理解する。	・千万の位までの数のよみ方、かき方、数構成	(知技)千万の位までの数のよみ方やかき方を理解している。《観察・ノート》
	3	61	○数の仕組みについて理解を深め、一億という数について知る。 ○一万を単位とした数の相対的な見方を理解する。	・一億までの数の仕組み、1万や1000を単位にした相対的な大きさの見方 《一億》 ・一億という数の意味	(知技)数を10倍する見方で、一億という数の大きさをとらえることができる。《観察・発言》 (思判表)1万を単位にして、数の大きさを考えている。《観察・ノート》

	4	62	○一億までの数の大小比較ができる。	・一億までの数の大小比較 《不等号》	(知技)一億までの数の大小関係を理解し、不等号を使って表すことができる。《ノート・発言》
	5	63	○万の位までの数について、数直線上に数を表したり、数直線上の数をよんだりできる。	・一億までの数の系列 《数直線》	(態度)1目盛りの大きさに注意して、数直線をよもうとしている。《発言・観察》 (知技)数直線上に数を表したり、よんだりすることができる。《ノート》
	6	64	○数の相対的な大きさの見方のもとに、万の位までの数の加減の計算ができる。	・万の位までの数の相対的な大きさの見方にもとづく加法、減法	(思判表)数のまとまりに着目して、計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)1000や1万を単位にして、加減の計算ができる。《観察・ノート》
② 10倍した数、10でわった数	7	65	○数を10倍することについて理解する。	・数を10倍したときの位の仕組みの理解	(思判表)10をかける計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)10倍の計算ができる。《ノート》
	8	66~67	○数を100倍(10の10倍)、1000倍(100の10倍)することについて理解する。	・数を100倍、1000倍したときの位の仕組みの理解 ・100の100倍	(思判表)10倍の計算の仕方をもとに、100倍や1000倍の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)100倍や1000倍の計算ができる。《ノート》
	9	68	○数を10でわることについて理解する。	・数を10でわったときの位の仕組みの理解	(思判表)10でわる計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)10でわる計算ができる。《ノート》 (態度)ふり返りを通して、10倍の計算と10でわる計算の関係に気づいている。《発言・観察》
●練習	10	69	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	11	70~71	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

6 表とグラフ

目 標				指導時数・時期	
○身のまわりの事象について、表や棒グラフを用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともに、その方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				9時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月下旬～7月上旬	
評 価					
(知)身のまわりの事象について、表やグラフを用いて分類・整理する仕方を理解し、表やグラフをよんだりつくったりすることができる。					
(思)目的に応じて、表の項目や棒グラフの目盛りのつけ方を適切に判断したり、表や棒グラフから事象の特徴をよみとったりしている。					
(態)身のまわりの事象を分類・整理することに進んで関わり、ふり返りを通して表や棒グラフを目的にあわせて工夫することの必要性やそのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	131	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「ひょうと グラフ」	
① 整理のしかた	1	72	○好きな遊び調べの場面から、表やグラフを使って整理するという単元の課題をつかむ。	・生活場面による表やグラフの動機づけ	(態度)表やグラフに整理する必要性に気づき、わかりやすく表そうとしている。《観察・発言》
		73	○数を「正」の字で表し、簡単な表に整理することができる。	・「正」の字でデータを整理すること、表をつくること	(知技)資料の数を正の字を使って数え、簡単な表に整理することができる。《観察・ノート》
	2	74~75	○棒グラフの意味を理解し、よむことができる。	・棒グラフの見方、よみ方 《ぼうグラフ》	(思判表)棒グラフの特徴について考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	3	76~77	○1目盛りが1の棒グラフをかくことができる。	・棒グラフのかき方(1目盛りが1) 《表題、たてのじく、横のじく》 ・横型の棒グラフの見方、よみ方	(知技)表から棒グラフをつくること ができる。《観察・ノート》
② 整理のしかたのくふう	4	78~79	○数の多い順に並べたり、数の少ないものをまとめたりして、表や棒グラフに整理することができる。	・「その他」の意味と整理の仕方	(思判表)資料をわかりやすく表す方法を考えている。《発言・観察》 (態度)目的にあわせて表やグラフを工夫することのよさに気づき、学習や生活にいかそうとしている。《観察・発言》

	5	80~81	○1目盛りが1でない棒グラフのかき方を考え、正しくかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの大きさが工夫された棒グラフのかき方・よみ方 1目盛りの大きさを工夫した棒グラフのかき方・よみ方 算数探しの活動 	<p>(思判表)資料にあわせて目盛りの大きさを考えて、棒グラフをつくっている。《観察・ノート》</p> <p>(態度)身のまわりでどんな棒グラフが使われているかに関心をもち、進んでみつけようとしている。《観察》</p>
	6	82~83	○目盛りのつけ方が違う2つのグラフを比較する活動を通して、目的に合った目盛りのつけ方について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの大きさが異なる棒グラフの考察 	<p>(態度)わかりやすく表すための工夫の仕方を考えようとしている。《発言・観察》</p> <p>(思判表)2つの棒グラフの目盛りの幅の違いに気づき、事柄の特徴を考えたり説明したりしている。《発言・観察》</p>
③表やグラフを組み合わせて	7	84~85	○一次元の表を組み合わせた二次元の表の見方について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な二次元の表 	<p>(知技)二次元の表について理解し、整理することができる。《観察・ノート》</p>
	8	86	○複数の棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 複数の棒グラフのよみ 	<p>(知技)工夫された棒グラフから、情報を適切に読み取ることができる。《発言・観察》</p> <p>(思判表)工夫された2つの棒グラフについて、それぞれのよさを考えたり、説明したりしている。《発言・観察》</p>
学びのまとめ	9	87	○学習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> たしかめよう 	<p>(知技)、(思判表)、(態度)</p>

7 たし算とひき算

目 標		指導時数・時期			
○(2位数)±(2位数)の計算について、繰り上がりや繰り下がりに着目して計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、暗算で計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		4時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月上旬			
評 価					
(知)・(2位数)±(2位数)や100-(2位数)の暗算の仕方を理解し、その計算の答えを暗算で求めることができる。					
(思)・暗算の仕方を考えたり、説明したりしている。					
(態)・たし算とひき算の暗算に進んで関わり、ふり返りを通して暗算処理のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1 ・ 2	88	○繰り上がりの有無を意識して、(2位数)+(2位数)の暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> (2位数)+(2位数)で答えが2位数の暗算 <p style="text-align: center;">《暗算》</p> <ul style="list-style-type: none"> (2位数)+(2位数)で答えが3位数の暗算 	<p>(思判表)繰り上がりに注意しながら暗算の仕方を考えている。《発言・観察》</p> <p>(知技)(2位数)+(2位数)の暗算ができる。《ノート》</p> <p>(態度)(2位数)+(2位数)の暗算の仕方を身につけて活用しようとしている。《観察》</p>
	3 ・ 4	89	○繰り下がりの有無を意識して、(2位数)-(2位数)の暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> (2位数)-(2位数)の暗算 100-(2位数)の暗算 	<p>(思判表)繰り下がりに注意しながら暗算の仕方を考えている。《発言・観察》</p> <p>(知技)(2位数)-(2位数)の暗算ができる。《ノート》</p>

活 どんな計算になるのかな

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●どんな計算になるのかな	1	90~91	○根拠にもとづいて、かけ算やわり算の演算決定をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 乗除の演算決定 	<p>(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》</p>

活 算数の自由研究

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●算数の自由研究	1	92~93	○「迷路づくり」などの自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> 算数の自由研究 	<p>(思判表)見通しをもちながら、迷路の構成を考えている。《観察》</p> <p>(態度)迷路づくりに意欲的に取り組み、いろいろな迷路をつくらうとしている。《観察・作品》</p>

* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	94~95	○既習事項の確認と持続	<ul style="list-style-type: none"> 復習 	

8 長さ

目 標					指導時数・時期
○ 長さについて、巻尺の使い方やkmの単位を理解し、測定する活動を通して長さの測定や計算、単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5時間 2学期制：7月中旬～7月下旬 3学期制：9月上旬
評 価					
(知)・巻尺の使い方や、長さの単位「km」について理解している。 (思)・長さの単位に着目して長さの計算の仕方を考えたり、長さの量感をもとに適切な単位を判断したりしている。 (態)・長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返しを通して長さにあわせて適切な計器や普遍単位を使うことや、長さの量感を身につけておくことよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	131	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「長さ」「100cmをこえる長さ」	
(課題設定)	1	96 97	○長さをはかる計器について調べ、長いものの長さのはかり方や表し方を調べるとい単元の課題をつかむ。 ○長さの見当づけを行い、巻尺を使ってはかる。	・長さ調べの動機づけ ・巻尺を使った測定	(態度)長さにあわせて計器を選択することの必要性に気づき、長さを測定しようとしている。《観察》 (知技)巻尺を使った測定ができる。《観察》
	2	98	○長さの単位kmについて知り、kmを使って道のりなどの長さを表すことができる。	・普遍単位kmの意味、1km=1000m 《道のり、キロメートル(km)、1km》	(知技)kmが道のりなどを表すときに使われる単位であることを知り、1km=1000mであることを理解している。《観察》
	3	99	○長さの加減計算をする。	・長さの加減計算 《きより》	(思判表)単位に着目して、長さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	4	100	○時間と関連づけて道のりの量感をつかみ、道のりを見当づけたり測定したりする。	・量感を使った、身のまわりの長さの見積もりと測定	(態度)100mの量感を身につけることよさに気づき、量感をいかしているいな道のりを予想したり測定したりしている。《観察》 (知技)適切に単位を選択することができる。《ノート》
学びのまとめ	5	101	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

9 あまりのあるわり算

目 標					指導時数・時期
○ 余りのあるわり算について、余りの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りを処理したりできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8時間 2学期制：9月上旬～9月中旬 3学期制：9月上旬～9月下旬
評 価					
(知)・余りの意味や余りのあるわり算の仕方を理解し、余りのあるわり算の答えを求めたり、確かめたりすることができる。 (思)・わり算の意味にもとづいて余りの大きさを判断したり、目的にあわせて余りの処理の仕方を考えたりしている。 (態)・余りのあるわり算に進んで関わり、ふり返しを通して余りのあるわり算の答えの求め方や目的にあわせて余りを処理することよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	131	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「わり算」	
(課題設定)	1	102 103～104	○おかしを分ける場面から、余りのあるわり算について調べるとい単元の課題をつかむ。 ○包含除で余りのあるわり算の意味を理解する。	・既習内容と生活場面による、余りのあるわり算の動機づけ ・余りのあるわり算(包含除)の意味と表し方 《あまり》	(思判表)既習のわり算の仕方をもとに、余りのあるわり算の答えの求め方を考えている。《観察・発言》 (知技)余りのあるわり算の場面を式に表し、答えを求めることができる。《観察・ノート》
①あまりのあるわり算のしかた	2	105～106	○わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを理解する。	・(余り)<(除数)の関係の理解	(思判表)わり算の意味にもとづいて、余りの大きさを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)余りはいつもわる数より小さくなることを理解している。《発言・観察》
	3	107	○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、計算や適用題を解くことができる。	・等分除で余りのあるわり算の意味	(知技)余りのあるわり算の立式や計算ができる。《ノート》
	4	108	○わり算の操作や計算の仕方をもとに、余りのあるわり算の答えの確かめ方を理解する。	・余りのあるわり算の答えの確かめ方(除数)×(商)+(余り)=(被除数)	(態度)わり算の答えを確かめるよさに気づいている。《観察》 (知技)余りのあるわり算の答えの確かめができる。《ノート》
●練習	5	109	○学習内容を確実に身につける。	・練習	

②あまりを考えて	6	110	○問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り上げて処理することができる。	・余りを切り上げる問題の解決	(思判表)余りを切り上げて処理すればよいわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	7	111	○問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り捨てて処理することができる。	・余りを切り捨てる問題の解決	(思判表)余りを切り捨てて処理すればよいわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)目的にあわせて余りを処理することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
学びのまとめ	8	112～113	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

10 重さ

目 標	指導時数・時期
○ものの重さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して秤で重さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。	8時間 2学期制：9月中旬～10月上旬 3学期制：9月下旬～10月上旬
評 価	
(知)・秤の使い方や、重さの単位「g」、「kg」、「t」のよみ方・かき方・相互関係を理解している。また、重さの加減計算ができる。 (思)・重さの普遍単位の必要性に気づき、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりしている。 ・単位の間隔を統合的に考察している。 (態)・重さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して重さにあわせて適切な計器や普遍単位を使うことや重さの量感を身につけておくことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。	

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	131	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「かさ」 ・3年「長さ」	
(課題設定)	1	114	○直接比較による導入で、重さについて調べるという単元の課題をつかむ。 ○任意単位(1円玉)による測定を通して重さの単位gについて知り、gを使って重さを表すことができる。	・直接比較による測定を通じた重さの学習の動機づけ ・任意単位(1円玉)による測定、普遍単位「g」の導入 《グラム(g)、1g》	(態度)既習の長さやかさと同様に、重さについても数値化して表したり比べたりしようとしている。 《観察・発言》 (知技)g単位で重さを表すことができる。《ノート》
①重さの表し方		115			
	2	116～117	○秤を使って重さの測定ができる。	・秤による測定、秤の使い方と目盛りのよみ方	(知技)秤の目盛りを正しくよみ、重さをはかることができる。《発言・観察》
	3	118～119	○重さの単位kgについて知り、kgを使って重さを表すことができる。	・「kg」の導入、1kg=1000g 《キログラム(kg)、1kg》	(知技)1kgをこえる重さをはかたり表したりすることができる。 《観察・ノート》
	4	120	○1kgの重さをつくったり身のまわりから見つけたりして、1kgの量感を身につけることができる。	・1kgの重さづくり(量感)、1kgの重さがし	(態度)1kgの量感を身につけ、生活や学習にいかそうとしている。《観察》
	5	121	○1kgの量感をもとにして、身のまわりのものの重さを見当づけ、適切に秤を選択して測定することができる。	・重さの見当づけと秤の選択	(思判表)1kgの量感をもとに、身のまわりのものの重さを予想したり計器を判断したりしている。《観察・ノート》 (知技)用途に応じた秤がつくられていることを理解し、適切に秤を選択して重さを測定することができる。《観察・ノート》
	6	122～123	○簡単な場合の重さのたし算やひき算の計算ができる。	・重さの加減計算	(思判表)単位に着目して、重さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)簡単な場合の重さの計算ができる。《ノート》
②たんの関係	7	124～125	○重さの単位tについて知り、tを使って重さを表すことができる。 ○長さ、かさ、重さの単位の間隔を整理し、m(ミリ)とk(キロ)の意味を理解することができる。	・「t」の導入、1t=1000kg 《トン(t)、1t》 ・一次元的に表現される「長さ」「かさ」「重さ」の単位の間隔	(知技)tがとても重い重さを表すときに使われる単位であることを知り、1t=1000kgであることを理解している。《観察》 (思判表)単位の間隔について、何倍になっているかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	8	126～127	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	128	○既習事項の確認と持続	・復習	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容	指導時数
130～131	・じゅんぴ	
132～138	・もっと練習	
142～143	・学びをつなげよう	

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

11 円と球

11 円と球					
目 標				指導時数・時期	
○ 円や球について、コンパスを使って円を作図する活動や円や球を観察する活動を通して、円や球について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制(10月中旬～10月下旬) 3学期制(10月中旬～10月下旬)	
評 価					
(知)・円や球の形とそれらの中心、半径、直径について理解し、コンパスを使って円をかくことができる。 (思)・回転した点の軌跡として円の形をとらえ、円や球には中心となる点があることに気づき、作図の仕方を考えたり、半径や直径について調べたりしている。 (態)・円や球の形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して「まるい形」を数学的にとらえるための見方やコンパスの機能のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	114	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「いろいろな かたち」	
	1	2～3	○こまを回したときの点の軌跡の観察を通して、丸い形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・こまを回す活動による円の動機づけ	(態度)回転した点の軌跡に関心を持ち、こまの回る様子を観察している。《観察》
	2	4～5	○円のかき方とコンパスの使い方、および円の中心、半径について理解する。	・円の作図、コンパスの使い方 ・円の定義(点の軌跡)、円の中心・半径の定義 《円、(円の)中心、(円の)半径》	(思判表)回転した点の軌跡として円をとらえ、中心があることに気づいている。《観察・発言》 (知技)コンパスを使って円をかくことができる。《観察・ノート》 (知技)円の中心や半径の意味を理解している。《発言・観察》
	3	6	○半径を決めて円をかくことができる。 ○1つの円では、半径をどこにとってもすべて長さが等しいこと、半径の長さによって円の大きさが決まることを理解する。	・半径が指定されている円の作図 ・半径の理解	(知技)半径を決めて円をかくことができる。《観察・ノート》 (思判表)1つの円の半径はすべて等しい長さであることや、円の大きさは半径によって決まることに気づいている。《観察・発言》
	4	7	○直径および直径と半径の関係を理解する。	・円の直径の定義、直径=半径×2であること 《(円の)直径》 ・円の中心のみつけ方	(知技)円の直径について知り、直径が半径の2倍であることを理解している。《観察・発言》 (思判表)円の直径が中心を通ることに着目して、円形の紙を折って中心を見つける方法を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	5	8	○模様を観察し、模様のつくり方を考えることができる。 ○模様づくりを通して、コンパスの使い方と円のかき方に習熟する。	・コンパスを使った模様づくり	(思判表)模様から円の形を見だし、中心の位置や半径の長さを判断して作図している。《観察・ノート》
	6	9	○長さを写し取る道具(ディバイダー)としてのコンパスの使い方を理解する。	・コンパスを使った長さの写し取り	(態度)コンパスを使うと長さを写し取れることに気づき、活用しようとしている。《観察・発言》
	7	10～11	○身のまわりのまるい形をしたものを分類し、球とその性質について理解する。	・丸みのある立体の弁別、球の定義《球》 ・球の切り口、球の中心・半径・直径 《(球の)中心、(球の)半径、(球の)直径》 ・算数探しの活動	(態度)丸い形をしたものをいろいろな向きから観察して、形の特徴をとらえようとしている。《観察》 (知技)球について知り、球の中心・半径・直径の意味を理解している。《発言・観察》
学びのまとめ	8	12	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

12 何倍でしょう

12 何倍でしょう					
目 標				指導時数・時期	
○ 数量の倍関係について、図を使って何倍になるかを整理して考えたり、オペレータ(変量)に着目して何倍になるかを考えたりすることを通して、乗除の適用場面や数量の関係について理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制: 10月下旬～11月上旬 3学期制: 10月下旬～11月上旬	
評 価					
(知)・数量の倍関係を図に表し、乗法や除法を適切に用いてわからない数を求めることができる。 ・a倍のb倍が(a×b)倍になることを理解している。 (思)・日常の事象における数量の倍関係に着目し、「何の何倍が何か」を正しく判断して図に表したり、図をもとにわからない数の求め方を考えたりしている。 (態)・数量の倍関係の学習に進んで関わり、ふり返りを通して数量の倍関係を図に表すことや何倍になるかをまとめて考えることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	114	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「かけ算」	
① 何倍かをもとめる	1	13	○関係図に表して数量の倍関係をとらえる。	・車の走った長さによる割合の動機づけ	(知技)数量の関係を図に表すことができる。《観察・ノート》
		14～15	○わり算を適用して、何倍かを求めることができる。	・くらべる量を求める計算(第2用法) ・何倍かを求める計算(第1用法)、関係図のかき方	(知技)何倍かを求めるには、わり算を適用すればよいことを理解している。《発言・ノート》

② もとにする大きさを もとめる	2	16~17	○関係図に表して数量の倍関係を とらえる。 ○何倍かの関係にある2量のうちの、 もとにする量を求めることができる。	・もとにする量を求める計算(第3 用法)、関係図のかき方	(思判表)もとにする量を求めるの に、図を使って考えたり説明したり している。《発言・観察》 (態度)数量の関係を図に表すこと のよさに気づき、学習にいかそうと している。《観察・ノート》
③何倍になるかを考 えて	3	18	○ $a \times b \times c$ の場面で、順に考 えて解く方法と、何倍になるかに着 目してまとめて考えて解く方法の2 通りの考え方がわかる。	・ $a \times b \times c$ の場面で、順に考 えたりまとめて考えたりして解く問 題	(思判表)「aのb倍のc倍」とい う数量の関係を図に表すことを通 して、「aの(b×c)倍」という関係 に気づいている。《発言・ノート》
	4	19	○ $a \times b \times c$ の場面で、何倍に なるかに着目してまとめて考える 方法で解くことができる。	・ $a \times b \times c$ の場面で、まと めて考えて解く問題	(思判表)オペレータに着目し、「a のb倍のc倍」を「aの(b×c)倍 」として考えている。《発言・ノ ート》

13 計算のじゅんじょ					
目 標				指導時数・時期	
○乗法の式や計算について、()を使って1つの式に表したりその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、結合法則について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				1時間 2学期制：11月上旬 3学期制：11月上旬	
評 価					
(知)・乗法の結合法則について理解し、3要素2段階の問題を1つの式に表したり、()を使った式の計算をしたりすることができる。 (思)・オペレータに着目し、3要素2段階の問題を1つの式に表している。 (態)・乗法の式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して()を使うと考え方や数量の関係を簡潔に1つの式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	20~21	○数量の関係に着目し、乗法の結 合法則が成り立つことを理解すると ともに、これを用いて計算するこ とができる。	・乗法の結合法則、 $a \times b \times c = a \times (b \times c)$	(思判表)2つの考え方の違いに着目 し、式や計算について考えようと している。《観察・発言》 (知技)乗法の結合法則が成り立つこ とを理解し、()を使った式で表す ことができる。《ノート》 (態度)()を使って式に表すよさに 気づき、学習にいかそうとしてい る。《観察・発言》

14 1けたをかけるかけ算の筆算					
目 標				指導時数・時期	
○1けたをかけるかけ算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2、3位数)×(1位数)の計算の筆算や簡単な(2位数)×(1位数)の計算の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11時間 2学期制：11月上旬～11月中旬 3学期制：11月上旬～11月中旬	
評 価					
(知)・(2、3位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、(2、3位数)×(1位数)の計算をすることができる。 (思)・10や100を単位として(何十・何百)×(1位数)の計算の仕方を考え、その仕方や計算のきまりをもとに(2、3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えている。 (態)・1位数をかけるかけ算に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算の筆算の仕方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	—	114	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「九九の表とかけ算」	
①何十・何百のかけ算	1	22	○(何十・何百)×(1位数)の立式をし て、計算の仕方を考えていくとい う単元の課題をつかむ。	・(何十・何百)×(1位数)の計算の動 機づけ	(思判表)10や100を単位として、 (何十・何百)×(1位数)の計算の仕 方を考えたり説明したりしてい る。《ノート・発言》 (知技)(何十・何百)×(1位数)の計 算ができる。《ノート》
		23	○(何十・何百)×(1位数)を、10や100 を単位にして九九の計算に帰着さ せて計算することができる。	・(何十・何百)×(1位数)の意味と計 算の仕方	
②(2けた)×(1けた)の 筆算	2	24	○(十何)×(1位数)を、(十)×(1位数) と(何)×(1位数)にわけて計算する ことができる。	・(2位数)×(1位数)の意味と計算の 仕方	(思判表)12×4の計算の仕方を考 えたり説明したりしている。《発 言・ノート》
		3	○繰り上がりのない(2位数)×(1位 数)を筆算で計算することができ る。	・繰り上がりのない(2位数)×(1位 数)の計算	(態度)加法や減法のように筆算で計 算ができないかを、具体物の操作 をもとに考えようとしている。 《観察・ノート》 (知技)繰り上がりのない(2位数)×(1 位数)の筆算の仕方を理解し、筆算 で計算することができる。《ノ ート》
	4	26	○十の位に繰り上がる(2位数)×(1 位数)を筆算で計算することができ る。	・24×3(十の位への繰り上がり1 回の筆算)	(知技)十の位に繰り上がる(2位数)× (1位数)の筆算の仕方を理解し、筆 算で計算することができる。《ノ ート》

	5	27	○百の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	・32×4 (百の位への繰り上がり1回の筆算)	(知技)百の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	6	28	○繰り上がりが2回の(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	・43×6 (繰り上がり2回の筆算)	(思判表)十の位にも百の位にも繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
●練習	7	29	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③(3けた)×(1けた)の筆算	8	30	○(2位数)×(1位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	・繰り上がりのない(3位数)×(1位数)の計算	(態度)(2位数)×(1位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察》
	9	31	○既習の筆算の仕方をもとに、繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	・繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の計算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに、繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
④暗算	10	32	○積の見当づけを生かして、簡単な(2位数)×(1位数)を暗算で計算することができる。	・簡単な(2位数)×(1位数)の暗算	(知技)簡単な(2位数)×(1位数)を暗算で計算することができる。《ノート》
学びのまとめ	11	33	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう	(知技)、(思判表)、(態度)

15 式と計算

目 標		指導時数・時期			
○ 加減と乗法の混じった式や計算について、()を使って1つの式に表したりその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分配法則について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		2時間 2学期制：11月下旬 3学期制：11月下旬			
評 価					
(知) ・分配法則について理解し、()を使って1つの式に表したり、その計算をしたりすることができる。					
(思) ・別々に求める考え方と1組にまとめる考え方を、()を使って1つの式に表したり、その計算の仕方を考えたりしている。					
(態) ・加法と乗法の混じった式や計算に進んで関わり、ふり返りを通して()を使うと考え方や数量の関係を簡潔に1つの式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	34～35	○ $a \times c \pm b \times c$ の場面で、別々に考えて解く方法とまとまりを考えて解く方法の2通りの考え方があることがわかる。	・ $a \times c \pm b \times c$ を2通りの考え方で解く問題	(思判表)数量の合計の求め方を、もの種類ごとに別々に考えたり、組にしてまとめて考えたりしている。《発言・ノート》
	2	36～37	○具体的な場面に照らし合わせて考え、分配法則のきまりについて理解したり、式に表したりすることができる。	・加減と乗法の分配法則、 $a \times c \pm b \times c = (a \pm b) \times c$	(思判表)2つの考え方の違いに着目し、式や計算について考えようとしている。《観察・発言》 (知技)結合法則が成り立つことを理解し、()を使った式で表すことができる。《ノート》 (態度)()を使って式に表すよさに気づき、学習にいかそうとしている。《観察・発言》

16 分 数

目 標		指導時数・時期			
○ 分数について、その意味や表し方を理解し、分数の大きさを数直線に表したり、分数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		10時間 2学期制：11月下旬～12月中旬 3学期制：11月下旬～12月中旬			
評 価					
(知) ・分数を使った数量の表し方を理解し、分数の大小比較や、同分母分数の加減計算をすることができる。					
(思) ・単位分数の何個分かに着目し、分数の大きさや同分母分数の加減計算の仕方を考えている。					
(態) ・分数に進んで関わり、ふり返りを通して単位分数の何個分かに着目することのよさや分数で表すことの意味に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	114	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「分数」	
(課題設定)	1	38	○1mを単位にしてはかったときの余りの長さの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・端数の表し方による分数の動機づけ 《等分する》	(態度)1mを基準にして、端数部分の長さの表し方を考えようとしている。《発言・観察》
①あまりの大きさの表し方		39	○単位分数を用いた量の表し方を理解する。	・等分による「1mの1/○」や「1/○m」という表し方	(知技)1mに満たない長さを、1/2mや1/3mのように単位分数で表すことができる。《ノート》

	2	40~41	○単位分数のいくつ分で分数の大きさを表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「$1/Om$のΔこ分」を「Δ/Om」と表す表し方、分母・分子の定義 《分数、分母、分子、等号》 ・「$1/Om$のOこ分」が「$1m$」であること の理解 ・分割分数と量分数の違い 	(思判表)単位分数の何個分かに着目して、長さの表し方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)分数を使った表し方を理解し、 $1m$ に満たない長さを分数で表すことができる。《観察・ノート》
	3	42	○液量についても分数で表せることを知り、分数の意味への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・長さ以外の量の分数表記 	(態度)長さの場合をもとに、 $1L$ に満たないかさの表し方を考えようとしている。《発言・観察》 (思判表) 10 等分した何個分かに着目して、かさの表し方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
② 分数の大きさ	4	43	○分数を抽象数としてとらえ、単位分数および1との関係について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を量としてだけでなく数としても理解すること 	(思判表)長さやかさを分数で表したことをもとに、 1 という数を 5 等分してできる大きさの表し方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)分母と分子が等しいとき、その大きさは 1 であることを理解している。《発言・ノート》
	5	44	○ 1 より小さい目盛りのある数直線があることを知り、その数直線上の点を分数で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を数直線上に表すことと、分数の数直線のよみ方 	(態度) 1 という数の何等分かに着目し、数としての分数の意味を深く理解しようとしている。《観察》 (思判表)分数を数直線に表す方法を考えたり、 1 までの目盛りの数と分母との関係を説明したりしている。《発言・観察》 (知技)数直線上の点を分数で表すことができる。《発言・ノート》
	6	45	○分数の大小や相等の関係を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・同分母分数の大小比較と、等号・不等号による表記 	(知技)同分母分数の大小関係を理解し、等号・不等号を使って表すことができる。《発言・ノート》
③ 分数のたし算・ひき算	7	46	○同分母分数のたし算の仕方を考え、計算することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・同分母分数の加法 	(思判表)単位分数の何個分かに着目して、同分母分数のたし算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)同分母分数のたし算ができる。《ノート》
	8	47	○同分母分数のひき算の仕方を考え、計算することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・同分母分数の減法 	(思判表)たし算の計算の仕方をもとに、同分母分数のひき算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)同分母分数のひき算ができる。《ノート》
●練習	9	48	○学習内容を確実に身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・練習 	
学びのまとめ	10	49	○学習内容の理解を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・たしかめよう 	(知技)、(思判表)、(態度)

活 間の数

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
思 間の数	1	50	○ 1 列に並んだものの数と順序との関係を、図を使って考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・順序数の思考法 	(思判表)並んだものの数を簡潔な図に表し、順序や間の数について考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	2	51	○ 1 列に並んだものの数とその間隔との関係を、図を使って考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・植木算の思考法 	(態度)並んだものの数を簡潔な図に表すよさに気づき、間の数や間隔について考えようとしている。《発言・ノート》

わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●わくわくプログラミング	1	52~53	○レーシングカーを動かすプログラムをつくる活動を通して、基本的なプログラミングの考え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前進・回転・くり返しによるプログラミング 	(思判表)同じ進み方があることに気づき、目的まで動かすプログラムを考えたり工夫したりしている。《発言・ノート》

* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	54~55	○既習事項の確認と持続	<ul style="list-style-type: none"> ・復習 	

17 三角形

目 標				指導時数・時期	
○ 二等辺三角形や正三角形について、辺に着目して二等辺三角形や三角形の意味を理解し、作図の仕方や角の大きさを考えたり調べたりすることを通して、三角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8 時間 2 学期制：1 月中旬～1 月下旬 3 学期制：1 月中旬～1 月下旬	
評 価					
(知) ・二等辺三角形や正三角形の意味や性質を理解し、コンパスを使って二等辺三角形、正三角形をかくことができる。 (思) ・辺の長さに着目して、二等辺三角形や正三角形を弁別したり、作図の仕方を考えたりしている。 (態) ・三角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して辺の長さや角の大きさに着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび (課題設定)	1	115 56	○既習事項の理解を確かめる。 ○色紙を使っていろいろな三角形をつくる活動を通して、単元の課題をつかむ。 ○辺の長さに着目して、二等辺三角形や正三角形を弁別することができる。	・2 年「三角形と 四角形」 ・付録の色紙を使った三角づくりによる学習の動機づけ ・三角形の分類と二等辺三角形、正三角形の定義	(態度) 辺の長さに着目して、三角形を分類しようとしている。《観察・発言》 (知技) 二等辺三角形や正三角形の意味を理解し、弁別することができる。《発言・ノート》
① 二等辺三角形と正三角形	2	59	○二等辺三角形と正三角形を作図し、二等辺三角形や正三角形について理解を深める。	・コンパスを使った二等辺三角形や正三角形の作図	(思判表) 辺の長さが等しいことに着目して、作図の仕方を考えている。《発言・観察》 (知技) 二等辺三角形と正三角形を作図することができる。《観察・ノート》
	3	60	○円の半径の性質を利用すると、二等辺三角形や正三角形をかくことができることを理解する。	・円を使った二等辺三角形、正三角形づくり	(思判表) 円の性質をもとに、円を使ってかいた三角形の特徴を考えたり、二等辺三角形や正三角形になるわけ説明したりしている。《発言・ノート》
	4	61	○色紙を使って二等辺三角形や正三角形をつくる方法を考える。 ○身のまわりから二等辺三角形や正三角形の形をしたものを見つける。	・色紙を使った二等辺三角形、正三角形づくり ・算数探しの活動	(思判表) 色紙を折って重なるところに着目して、二等辺三角形や正三角形ができるわけを考えている。《観察・発言》 (態度) 辺の長さに着目することのよさに気づき、身のまわりから二等辺三角形や正三角形を見つけている。《観察・発言》
	② 角	5	62～63	○角について知り、二等辺三角形や正三角形の角の大きさについての性質を理解する。	・角の定義 《角》 ・角の大きさが等しいかどうかの判断と、二等辺三角形や正三角形の角の性質 ・直角二等辺三角形の定義
	6	64	○三角定規の角を調べる活動を通して、角の大きさが辺の長さには関係ないことを理解する。	・角の大きさの大小比較と、角の大きさが辺の長さによらないことの理解	(知技) 大きさの等しい角を見つめることができる。《観察・発言》 (思判表) 角についての理解を深め、角の大きさが辺の長さによらないことに気づいている。《観察・発言》
	7	65	○正三角形や二等辺三角形は平面に敷き詰めることができることを知る。 ○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つけることができる。	・正三角形の敷き詰め	(態度) 正三角形や二等辺三角形を並べているいろいろな形や模様がつくことに気づき、敷き詰め模様づくりに進んで取り組んでいる。《発言・ノート》 (思判表) 敷き詰め模様をつくる活動を通して、平面の広がりを感じている。《観察》
学びのまとめ	8	66～67	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

18 小 数

目 標				指導時数・時期
○ 小数について、その意味や表し方を理解し、小数の大きさを数直線に表したり、小数のたし算やひき算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、小数についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				11 時間 2 学期制：1 月下旬～2 月中旬 3 学期制：1 月下旬～2 月中旬
評 価				
(知) ・小数を使った数量の表し方や小数の仕組みを理解し、小数の大小比較や加減計算をすることができる。 (思) ・単位小数の何個分かに着目し、小数の大きさや同分母分数の加減計算の仕方を考えている。 (態) ・小数に進んで関わり、ふり返りを通して単位小数の何個分に着目することのよさや小数も整数と同じ仕組みで表されることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。				

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	115	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「分数」	
(課題設定)	1	68	○1Lを単位にしてはかったときの余りのかさの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・かさの端数部分の表し方による小数の動機づけ ・小数による量の表し方 ・小数・整数の意味 《小数、小数点、10分の1の位、整数》	(態度)分数の場合をもとに、1Lの1/10の何個分かに着目すればよいことに気づき、端数部分のかさの表し方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)1Lの1/10のかさを0.1Lと表すことや小数の位について理解し、かさを小数で表すことができる。《発言・ノート》
①あまりの大きさの表し方		69～70	○小数について知り、小数を用いた量の表し方を理解する。		
	2	71	○長さについても小数で表せることを知り、小数の意味や表し方についての理解を深める。 ○身のまわりから小数を見つける。	・複名数表記と小数表記 ・算数探しの活動	(知技)いろいろな長さやかさを、小数を用いて単名数で表すことができる。《ノート・発言》 (態度)身のまわりで小数が使われている場面を見つける活動に進んで取り組み、小数で表すことよさに気づいている。《観察》
②小数の大きさ	3	72	○小数の仕組みや構成について理解する。	・小数の仕組みと相対的な見方(10分の1の位まで)	(思判表)小数を整数部分と小数部分に分けてとらえたり、0.1の何個分かでもとらえたりしている。《発言・ノート》
	4	73	○小数の大小関係について理解する。	・小数の数直線と大小比較	(知技)小数を数直線に表したり、位の数字に目をつけたりして、大小を比べることができる。《ノート》
	5	74	○小数と分数で大小を比較することができる。	・小数と分数の関係	(知技)小数と分数の大小関係を理解し、等号・不等号を使って表すことができる。《ノート》
③小数のたし算・ひき算	6	75	○小数のたし算の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・0.1の何個分の考えによる小数の加法	(思判表)0.1の何個分かに着目して、小数のたし算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)小数のたし算ができる。《ノート》
	7	76	○小数のひき算の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・0.1の何個分の考えによる小数の減法	(思判表)たし算の計算の仕方をもとに、小数のひき算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)小数のひき算ができる。《ノート》
	8	77	○小数の加減計算の仕方をもとに、その筆算も整数の筆算と同じようにできることを理解し、計算できる。	・小数第1位までの加減の筆算(一般型)	(態度)小数の仕組みは整数と同じであることに気づき、位に着目して小数の筆算の仕方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)小数の加減の筆算の仕方を理解し、計算することができる。《ノート》
	9	78	○(整数)±(小数)や(小数)±(小数)で空位のある筆算の仕方を理解し、計算できる。	・小数第1位までの加減の筆算(特殊型)	(思判表)位の違いや空位に注意して、筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
●練習	10	79	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	11	80～81	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

* ふく習

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	82～83	○既習事項の確認と持続	・復習	

19 2けたをかけるかけ算の筆算

目 標						指導時数・時期
○ 2けたをかけるかけ算の筆算について、1けたをかける場合の筆算をもとにその仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2、3位数)×(2位数)の計算の筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。						6時間 2学期制：2月中旬～2月下旬 3学期制：2月中旬～2月下旬
評 価						
(知) ・(2、3位数)×(2位数)の筆算の仕方を理解し、(2、3位数)×(2位数)の計算をすることができる。 (思) ・1位数をかける筆算の仕方や計算のきまりをもとに、(2、3位数)×(2位数)の筆算の仕方を考えている。 (態) ・2位数をかけるかけ算に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算の筆算の仕方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。						
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準	
じゅんび	—	115	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「1けたをかけるかけ算の筆算」		

(課題設定)	1	84	○既習の(2位数)×(1位数)の計算をもとに、2位数をかける計算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○乗数の何十を1位数と10の積とみて、(2位数)×(何十)の計算の仕方を考えることができる。	・既習のかけ算「×(1位数)」による「×(2位数)」の動機づけ ・何十をかけるかけ算の計算の仕方	(思判表)かける数の何十を1位数と10の積とみて、何十をかける計算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・ノート》 (知技)(2位数)×(何十)の計算ができる。《ノート》
①何十をかけるかけ算		85			
②(2けた)×(2けた)の筆算	2	86	○(2位数)×(2位数)で部分積が2桁の筆算を計算することができる。	・(2位数)×(2位数)の筆算(部分積2桁)の仕方	(思判表)2位数をかける場合も、1位数をかける場合と同じように筆算で計算ができないかを考えている。《観察・ノート》 (知技)(2位数)×(2位数)で部分積が2桁の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
	3	87	○既習の筆算の仕方をもとにして、(2位数)×(2位数)で部分積が3桁の筆算を計算することができる。	・(2位数)×(2位数)の筆算(部分積3桁)の仕方	(知技)(2位数)×(2位数)で部分積が3桁の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。《ノート》
●練習	4	88	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③(3けた)×(2けた)の筆算	5	89	○(2位数)×(2位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(2位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	・(3位数)×(2位数)の筆算の仕方	(態度)(2位数)×(2位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(2位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察》
学びのまとめ	6	90~91	○学習内容の理解を確認する。	・たしかめよう、ふりかえろう、やってみよう	(知技)、(思判表)、(態度)

20 □を使った式

目 標					指導時数・時期
○数量を□として式に表すことについて、わからない数を□とすれば数量やその関係を式に表せることを理解し、□にあてはまる数の求め方を考えたり説明したりすることを通して、数量の関係や計算の相互関係について理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					4時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬
評 価					
(知)・わからない数を□として式に表したり、□にあてはまる数を求めたりすることができる。 (思)・問題場面の数量やその関係に着目し、□を使って図や式に表している。 (態)・□を使った式に進んで関わり、ふり返りを通して□を使うことよきや文と図と式を関連づけることの意味に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	115	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「見方・考え方を深めよう」	
(課題設定)	1	92	○わからない数があるときの式について考えるという、単元の課題をつかむ。 ○わからない数を□として、式に表すことができる。	・生活場面による□を使った式の動機づけ ・□を使った式の立式(加法、減法)	(知技)わからない数を□として、□+aやa-□のような式に表すことができる。《ノート》
		93			
	2	94	○加法・減法の場面で□を使って立式し、□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	・加法、減法の場面で、□を使った式の立式と求答(□+a=b、a-□=b)	(知技)わからない数を□として、□+a=b、a-□=bのような式に表すことができる。《ノート》 (思判表)□にあてはまる数の求め方を考え、□に数をあてはめたり、数量の関係を図に表したりしている。《ノート・発言》
	3	95	○乗法・除法の場面で□を使って立式し、□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	・乗法、除法の場面で、□を使った式の立式と求答(□×a=b、a÷□=b)	(態度)加減の場合をもとに、乗除の場合についても□を使って式に表そうとしている。《観察》 (知技)わからない数を□として、□×a=b、a÷□=bのような式に表すことができる。《ノート》
	4	96~97	○算数の問題をつくり、その問題文に合う図や式を考えることができる。	・問題文と図と式の関連づけ	(思判表)数量やその関係に着目して問題文に合う図や式を考え、文と図と式を関連づける意義に気づいている。《ノート・発言》

● そろばん

目 標					指導時数・時期
○そろばんについて、そろばんを用いた数の表し方を理解し、簡単な加減の計算を通して、そろばんの構造やよさに気づくとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					1時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
評 価					
(知)・そろばんによる数の表し方、簡単な加法および減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて簡単な計算ができる。 (思)・そろばんによる数の表し方をもとに、簡単な加法および減法の計算の仕方を考えている。 (態)・そろばんの学習に進んで関わり、ふり返りを通してそろばんと十進数の仕組みが関連していることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
	1	98～99	○そろばんについて知り、そろばんにおかれた数のよみ方や数の入れ方とはらい方を理解する。 ○繰り上がりや繰り下がりのない加減で、5だまの合成・分解の起こらない場合の計算をする。	・そろばんの仕組み、数の入れ方とはらい方 ・繰り上がり、繰り下がりのない加減で、5だまの合成・分解の起こらない場合の計算	(態度)そろばんでの数の表し方に進んで取り組み、そろばんと十進数の仕組みが関連していることに気づいている。《観察》 (知技)繰り上がりや繰り下がりのない場合で、5だまの合成・分解の起こらない加減の計算ができる。《観察》
	2	100～101	○5だまの合成・分解の起こる場合の加減の計算をする。	・繰り上がり、繰り下がりのない加減で、5だまの合成・分解の起こる場合の計算 ・繰り上がり、繰り下がりのある加減の計算	(思判表)5だまの動かし方に注意して、そろばんを使っての加減計算の仕方を考えている。《観察》 (知技)繰り上がりや繰り下がりを含む場合で、5だまの合成・分解の起こる加減の計算ができる。《観察》

活 買えますか？ 買えませんか？

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●買えますか？ 買えませんか？	1	102～103	○1つが100円玉何枚で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断し説明することができる。	・見積り素地	(思判表)品物1つが100円玉何枚で買えるかを判断し、それを根拠に複数のものが何百円で買えるかどうかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (態度)どのように考えれば買えるかどうかを判断できるのかをふり返り、生活や学習にいかそうとしている。《観察・作品》

わくわくSDGs「食べものをたいせつにしようプロジェクト」

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	おもな評価規準
●わくわくSDGs	1	104～107	○食品ロスについて話し合い、与えられたデータから1人あたりの食品ロスを求めることができる。 ○調べた結果から、これから自分たちにもできることを話し合う。	・集めたデータを活用した問題の発見と解決	(知技)与えられたデータから1人あたりの食品ロスの量を計算で求めることができる。《発言・ノート》 (態度)調べたことをもとに、自分たちにもできることを考えようとしている。《発言・ノート》

* もうすぐ4年生

ページ	学習内容	指導時数・時期
108～112	○3年生の学習内容の確認と持続	3時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

★ 学びのサポート

ページ	学習内容	指導時数
114～115	・じゅんぴ	
116～123	・もつと練習	
126～127	・学びをつなげよう	

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。